

【教育目標 夢中になる とともに創る】



きらきら



新潟市立沼垂幼稚園
園だより
令和5年7月20日発行

折り合いを付ける～協同性のはじまり～

園長 青木博子

年中児 4 歳児のある日の様子です。

一人の子どもが、電車に乗りました。担任が「私も連れて行って。どこまでいくの?」。するとこどもが「ダンゴ虫駅に行くの」と言います。そこへ、「ちょっと待って、お化け退治に行く」と A さんが乗ってきました。椅子はないので、自分で自分の椅子を持ってきました。そこへまた一人、また一人と自分の椅子を持ってきて電車に乗っていきます。

A さんが、椅子をそのままにして持ち物を取りに行っている間に、ほかの子どもが A さんの場所に座りました。戻ってきた A さんは「椅子がない」とつぶやきます。担任は A さんに言います。「この椅子、A さんが持ってきて置いていたね」。すると、A さんの場所に座った子どもが席を立ち、新たに自分の椅子を取りに行き電車の一番後ろに置いて座りました。担任と A さんとの会話で、気付いたのですね。

「出発進行!」子どもたちを乗せた電車は出発します。着いた場所で降りると、誰かがいます。「あなたはだあれ?」と聞くと、「ティラノザウルスだよ」。「すごい!恐竜に会えた!」。そしてまた電車に乗ります。「次はどこへ行く?」「恐竜の動物園!」。こうして、電車に乗ったお出かけは続きます。

「次は、おばけやしき!」と B さんが言いました。すると、C さんが小さな声で言いました。「やだ...」。担任が「嫌なの?怖い?」。C さんがうなずきます。担任が「怖いって」と伝えます。B さんは「おばけやしきがいい」。ある子どもは C さんを心配して、「C さんは、降りたらいいんじゃないの?」と言いました。すると、担任は「C さんは、みんなと一緒にいきたいみたいよ。どうしよう」と静かに子どもたちに伝えます。

すると、ほかの子どもが「おばけやしきで、バイバイして、すぐに次に行けばいい。1 回だけ見たらすぐ帰るのはどうかな?」と言いました。B さんが C さんにそっと言います。

「1 回だけ行ってみる?」。けれども C さんは「ううん...」と小さくつぶやきます。B さんはさらに「やさしいおばけじゃだめ?」。C さん「やさしいのもだめ...」。

ふと、一人の子どもが「おうち帰るね。(電車を)降りるね」と言って電車を降りようとしてしまいました。すると B さんが「あ!あ!まだ、探検が残っているよ!」。すると C さんが言いました。「カメ(亀駅)行きたいんだけど」。そこで B さんが言いました。「じゃあ、水族館駅にする!」。ほかの子どもが言います。「(水族館には)怖いものもいるよ。シャチもいるし、サメもいる!」。そこで、担任が聞きます「C さん、水族館駅はどう?」。すると C さんが「行く!」

子どもたちが声をそろえて言いました。「みんなで水族館へ行こう!」。こうして、子どもたちを乗せた電車は水族館駅へ行きました。

1人の子どもから始まった、電車に乗って出かける遊びが、次第に学級のみんなが電車に乗る遊びになりました。ところが、目的地を巡って、子どもの行きたい場所がぶつかります。子どもの出した結論は「みんなで一緒に行く」ことでした。それが「共通の目的」になり、だから、その実現に向けて、「お化け屋敷はすぐバイバイする」「一回見たらすぐに次に行く」と様々な考えが出され、それを経て、「水族館駅」へと目的地が決まります。ここに「協同性」に向かう子どもの姿があります。

担任は、それぞれの思いを十分に受け止め、思いを言葉にすることができるよう寄り添い、言葉掛けの援助をしました。そして、さりげなく「みんなと一緒にいきたいみたいよ。どうしよう」と子どもたちの無自覚な思い、集団としての方向性や困り感を言語化しました。

共に遊びたい仲間だからこそ、自分の気持ちだけでなく、相手の気持ちも考えようとするようになり、互いの気持ちの間で折り合いをつけていく。この「折り合いをつける」という「気持ちの調整力」は、まずは友達と一緒に活動する楽しさを十分に味わうことが大切です。それを経た上で、「友達とこんなことがしたい」という目的の実現に向かう気持ちがあるからこそ、育まれるものであり、教師が先走らず、決めたりせず、話し合いを支えるからこそ育まれるものです。それは、「お友達と仲良くしましょう」「相手の話を聞きましょう」「あなたが我慢すればいい」「順番にしましょう」などと、大人が決めるから育つものではないのです。

このような経験、すなわち学びをひとつひとつ積み重ねていくことで、「折り合いをつける」という「気持ちの調整力」は育まれていきます。沼垂幼稚園は、このような集団での学びを大切にしています。

最後に学級の友達全員で「水族館駅へ行こう!」と出発したときの子どもたちの表情は、行先はみんなが納得したという充実感、そしてみんなで一緒に水族館駅へ行くうれしさと一体感にあふれていました。

